

青果用シカクマメの栽培技術

第1報 主要品種の特性

木佐貫守・富山一男・*坂本真一(宮崎県総合農業試験場畑作園芸支場・*宮崎県総合農業試験場)

Mamoru KISANUKI, Kazuo TOMIYAMA and Shinichi SAKAMOTO: Cultivation Technique of Winged Bean 1. Characteristics of Main Cultivars

シカクマメが日本に導入されて20年近くになるが、最近の消費者嗜好の多様化、健康野菜への関心の高まりから、栄養価の高い若莢を利用する野菜として注目されつつある。このような中で、いくつかの日長感応性の低い品種が育成されており、宮崎県での新野菜として、適応性と生育特性を活かした栽培法を検討した。本報では主要品種の栽培特性について述べる。

1. 試験方法

供試品種は「貝塚みどり」「松原早生」「ちくしみどり」「ウリズン」の4品種を用いた。播種は、1991年5月7日にくん炭床に行い、発芽したものを鉢上げし、育苗した後、6月4日に定植した。シルバーマルチに畦幅130cm、株間60cmの2条植えとし、仕立てはアーチ型支柱にキュウリネットを使用した。施肥量は、成分量でN:0.12、P₂O₅:1.16、K₂O:1.24kg/aとした。収穫は、品種毎に若莢の生育進度と硬さから適期を判定した。9月27日の台風19号の襲来により、収穫期は9月末までで、その後は収穫限界、耐霜性について、「ウリズン」を標準に観察した。また、生育期の草勢、分枝の発生についても、同様に行った。

2. 結果及び考察

発芽には、播種後7日～15日を要し、発芽率は、「松原早生」が46%で最も低く、外の3品種は約70%～80%であった(第1表)。定植時の苗の大きさに差が認められたが、その後の生育には品種内の大きな差はなかった。定植後、いずれの品種も、約2週間は生育がほとんど進まず、一部葉の黄化がみられたが、その後の生育は順調に進んだ。開花始期は「ちくしみどり」、「ウリズン」、「松原早生」、「貝塚みどり」の順で、7月下旬から着花が激減し、栄養生長が強まり、8月中旬から再び着花が多くなった。草勢は、「ウリズン」に比較して「貝塚みどり」、「松原早生」がやや強く、「ちくしみどり」がやや弱かった。分枝の発生についても、同様であった。収穫晩限期は、「ちくしみどり」が10月上旬、外の3品種は、降霜期が実質の限界であることから、10月下旬と推察された(第2表)。

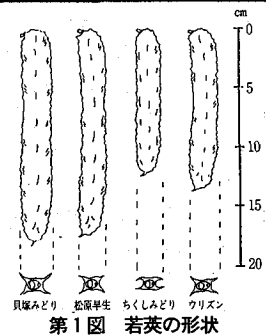
若莢の特性については、「ちくしみどり」は、扁平で比較的大きくなる前に硬化するので、12cm前後の小さいうちに収穫する必要があった。また、「貝塚みどり」、「松原早生」は17cm前後に収穫するのが適当であった(第3表及び第1図)。

収量性については、いずれの品種も全収量の約9割が9月の1か月間に集中した。収量は「ちくしみどり」>

「松原早生」>「貝塚みどり」>「ウリズン」の順であった。上英率は、「松原早生」が最も高かった(第4表)。

第1表 各品種の発芽率

品種	項目	発芽率(播種後15日目まで)
貝塚みどり		77%
松原早生		46
ちくしみどり		68
ウリズン		78



第1図 若莢の形状

第2表 各品種の生育特性

品種	項目	開花始期	開花盛期	開花終期	草勢	分枝の発生	収穫晩限期	耐霜性
貝塚みどり		7月15日	8月下旬	10月下旬	や強	や多	10月下旬	や強
松原早生		7.12	"	"	や強	"	"	や弱
ちくしみどり		7.8	"	"	や弱	少	10月上旬	弱
ウリズン		7.9	9月下旬	"	普	普	10月下旬	普

第3表 各品種の若莢特性

品種	項目	莢長(cm)	莢幅(cm)	重さ(g)	色
貝塚みどり		17.8	2.8	14.3	淡緑
松原早生		17.3	2.2	12.7	濃緑
ちくしみどり		12.2	2.3	9.1	緑
ウリズン		14.9	2.4	11.6	緑

第4表 各品種の時期別収量と上英率

品種	7月(kg/a)	8月(kg/a)	9月(kg/a)	計(kg/a)	個数(本)	うち上英数	上英率(%)
貝塚みどり	0.4	0.8	79.8	81.0	5,581	4,582	82
松原早生	0	0.6	130.4	131.0	9,574	8,717	91
ちくしみどり	10.9	7.2	159.0	177.1	19,725	16,960	86
ウリズン	0.1	0	9.9	10.0	896	678	76